

第五戰鬪ノ成績

一 彼我ノ損害

イ 友軍

死傷

附表第一ノ如シ

損耗

附表第三ノ如シ

ロ 敵軍

遺棄セル死体約八五〇

鹵獲品

附表第二ノ如シ

二 戰鬪ノ成果

イ十日以來聯隊カ曹家門台上ノ敵ノ左翼側ニ対シ石壁渡婆廟  
毛家營ノ線ヨリ猛烈ナル力攻ヲ加ヘ雨花台雨花營周家  
凹等一帯ノ要地ニ杜ル敵ノ内部防禦線ノ側背ニ大ナル脅  
威ヲ與ヘ有カナル敵ヲ同方面ニ牽制セルノミナラス終ニ十二日  
拂曉南京一帯ノ陣地ヲ放棄セシノ助攻ノ目的ヲ達成セリ  
ロ十二日南京東南角雨花門ニ對スル攻撃ハ配屬砲工兵ト  
緊密ナル連絡ノ下ニ頑強ナル敵ノ最後ノ抵抗ヲ破砕シ

全軍ニ先シ一擧ニ兩花門附近ノ城壁上及城内ヲ奪取  
シ午後四時七分軍旗城壁上ニ懸リ爾後十數回ノ送  
襲ヲ撃退シ以テ敵國首都占領ノ衅トナリ歴史的戰  
捷ニ光榮アル戰果ヲ擧ゲタリ

2378

戦闘ニ影響ヲ及ハス天候氣象及戦闘地状況

一 天候氣象

二十月十日ハ朝来曇天ナリモ十日十二日兩日ハ快晴ニシテ温暖戦闘行  
動ハ容易且地上上空ヨリ展望視察ニ好適ナリ然レトモ十日朝  
ハ霧深シキ砲兵射撃等困難ナラシメタリ

2 夜間ハ概ネ前半夜月明(旧土月十日頃)アリテ夜間ノ行動容易ナリ  
シモ敵ノ射撃効果ヲ大ニシ且我企圖ノ秘匿上甚カラス不利ヲ招  
キタリ但シ後半夜ハ暗夜ニシテ企圖ヲ秘匿スル行動ニ適セリ  
3 後半夜氣温低下降霜甚シク對陣中第一線部隊ハ相苦  
痛ヲ感セリ

日出 午前七時五分  
日没 午後五時十分

二 戦闘地状況

1 附近一帯丘陵地ニシテ處々ニ雜木アルモ中距離以内ニ於ケル展望射撃

ヲ妨ケス陣地編成ニ好適ナリ又觀測ニ適スル高地(標高四〇一八〇米)  
ト在ラス

### 又道路ノ景況

又路口——南京道秣陵關——南京道(三方五分ノ圓)ハ共ニ重車  
輜ノ通過ヲ許スモ上述道路ノ中間地ニアルト吳線道路ハ殆ト車輛  
ノ通過ヲ許サズ但シ又路口——南京道ハ對戰車壕ノ構築  
鉄條網及土葺衣ニシテ遮斷等ニテ車輛通過ノ多ク之ヲ作業ヲ要セリ  
子河川(クリーク)

障礙タルヘキヲクリークハ城壁外ノモノヲ際キ殆トナシ城壁外ノクリ  
ークハ巾七八十米水深三四米位ニシテ橋梁破壞セラレアリタルヲ  
メ大ナル障礙ヲ成セリ

々在民地及南京城内ハ地圖ト大差ナク家屋ハ煉瓦建瓦屋根多  
ク住民ハ大部分避難シテリ

々南京城壁(東南角附近)ハ上際ニ銃眼ヲ有シ所々屈折部ヲ掩

蓋側防機關アリ大部分煉瓦ニシテ斜面垂直高リ約三十米上部  
ノ中概ネ五米位アリテ射撃設備ヲ施セリ城門(雨花門及武定門)  
ハ鉄扉アリ且土囊等ニヨリ閉塞セラレアリ

交戦セシ彼我ノ兵力

一友軍

歩兵第百五十聯隊本部

通信班

第一大隊(第二第三中隊欠)

第二大隊

第三大隊(第十第十一中隊欠)

聯隊機關銃隊

歩兵砲隊

工兵第百十四聯隊第二中隊ノ小隊

尚十日ヨリ野戦重砲兵第廿四聯隊第二大隊(中隊欠)

十日、夜より野砲兵第百子聯隊第八中隊各協力  
十日午後より工兵第百十四聯隊副官指揮する兵分隊配屬  
敵軍

毛家營石邊聖廟附近

迫撃砲機関銃多敷有る約三大隊ナリシカ十日午後三時頃より遂次  
増加して約四大隊ナリ十日高射砲兵團正面約一大隊城壁附近約  
一大隊十数回直り實施シタル遂に敵兵力ハ約三大隊ニ上ル  
蔣介石直系ノ八十八師及八十七師ニシテ野砲迫撃砲機関銃ヲ多敷所持  
シ巧地取ヲ利用シテ構築セル鉄條網及堅固ナル「トーチカ」掩蓋銃坐  
及所在不明ノ側防機関ニ據リ極メテ頑強ニ抵抗セリ特ニ防禦戰鬥ニ長  
シ我カ重砲野砲ノ集中射撃ヲ蒙ル間一時沈黙スルモ射撃ヲ中止スルヤ直  
ニ射撃ヲ開始シ突撃機ヲ喚ヘシルヲ如キハ慥ニ彼ニ一日ノ長アルカ如シ  
又我城壁占領後ノ十日午後四時過リ深更迄十数回直り遂  
に襲ヲ試ミ之ヲ奪回ニ勉メタルハ首都防衛ノ任ヲ有スル敵トシテ

當然ナルモ城内城外城壁上相呼應シ喇ハ吹奏シ其堂々タル  
送襲振リ賞讃ニ價シ其精神教育モ亦徹底シアルモト認メタリ

特ニ功績顯著ナルモノ

第一大隊

一 南京城江寧要塞曾家門附近戦闘ニ方リテハ聯隊、左第一線トナリ當面、敵ヲ攻撃セリ曾家門附近、台上、敵ハ數個、「ト」ナカシ及掩蓋銃ヲ有スル約ニ大隊ニシテ正面ハ巾約四米、鉄條網ヲ繞ラシ頑強ニ抵抗セルモ能ク二十數時間不眠不休勇戦奮闘力攻シ江寧要塞、面ヲ占タル同高地、敵ヲ撃退シ敵陣地組織、破壊、基ヲナセリ南京雨花門攻撃ニ方リテハ敵、猛火ヲ冒シ工兵、架橋及城壁爆破作業ヲ掩護シテ日午後三時五十分突撃路完成スルヤ敵、側防火器一層猛威ヲ逞シシセルモ彈雨ヲ冒シ午後四時一撃、城壁及城内ニ突入シ敵、遂ニ退却シ遂ニ敵首都南京城、一角ヲ占領シ聯隊戦捷ノ魁ヲ爲セルモノニシテ其、功績ハ殊勲ノ甲ニ該當スルモノト認ム

第一火隊

南京江寧要塞曾家門附近、戦闘ニ方リテハ十日師團直轄トシテ雨花台、敵陣地ヲ攻撃シテアリタルモノ夜ニ至リ聯隊ニ復歸スルヤ直ニ聯隊豫備隊トシテ



聯隊攻撃ヲ容易ナラシメ十日拂曉ヨリ聯隊ハ兵力ヲ左ニ轉用シ曾家門面  
南側ヨリ重兵ヲ指向シ攻撃スルヤ第一線トナリ當面ノ敵ヲ攻撃シ先曾家  
門附近ノ敵陣據点タル堅壘ヲ一撃ニ突破シ聯隊全般ノ攻撃ヲ容易  
ナラシメテ南京城雨花門攻撃ニ方リテ聯隊ノ右第一線トナリ敵ノ猛火ヲ冒シ  
工兵架橋及城壁爆破作業ヲ掩護シ午後三時五十分突撃路完成スルヤ敵  
ノ側防火器一層猛威ヲ逞シウセルモ之ヲ意トスルコトナリ午後四時十五分一撃  
城壁及城内ニ突入シ数次ノ敵ノ逆襲ヲ撃退シ遂ニ敵首都南京城ノ角ヲ  
占領シ本戦捷ノ因ヲ爲セルモノニシテ其功績ハ殊勲ノ甲ニ該當スルモト認ム

### 第三大隊

南京江寧東塞曾家門附近戦闘ニ方リテハ聯隊ノ右第一線トナリ當面ノ  
敵ヲ攻撃セリ曾家門附近台上下右側當大隊正面ニハ「コンクリート」製建  
物ヲ利用シ尙數個ノ「トーチカ」及掩蓋銃坐ヲ有スル約五六百ノ敵ニシテ深サ  
四米ノ鉄條網ヲ繞ラシ頑強ニ抵抗セルモ能クニ數時間不眠不休勇戦奮  
闘ニテ數名ノ戦死傷者ヲ出スモ愈々旺盛ナル志氣ヲ以テ敵ニ肉迫力攻

同陣地ヲ突破シ江寧要塞ノ要點タル同高地ノ敵ヲ擊退シ敵陣地組織破  
壞、基ヲナシ南京城雨花門攻撃ヲ方リテ豫備トシテ第一線突撃部隊  
ノ掩護射撃ヲ在シ尚一部ヲ以テ突撃部隊ヲ編成シ突撃路開設スルヤ愈敵  
ノ側防火器ヲ制圧シ又城内外ヨリ我カ第一線ニ送襲シ来ル敵ヲ排除シ第  
一線突撃部隊ヲテ能ク敵首都南京城ノ一角ヲ奪取セシメタリ其ノ功績  
ハ武功拔群ナルモト認ム

通信班

曾家門附近ノ戦闘ニ方リテ我隊ハ旅團ノ右第一線トナリ旅團ト約三千米  
ヲ離テ展開セルモ敵ノ銃砲彈ヲ冒シ旅團及第一線兩大隊ニ速ク電話ヲ架  
設連絡セリ此ノ頃敵ノ銃砲擊ハ特ニ激シテ傳令往復全ク不可能ナル状態  
トナリ處ニ電話線ヲ切断セラレタルモ敵彈雨ヲ冒シ常に迅速ニ保線シ重要ナル  
連絡任務ヲ完クセリ第一線攻撃進捗スルヤ全ク敵ノ猛火ニ身ヲサシテ迂回線  
ノ撤収及架換ヲ適時實施シ能ク二十數時間ノ間晝夜敵彈雨下ニ連絡ヲ  
確保セリ特ニ重砲兵我隊ニ協力スルヤ彈着ノ觀測修正ヲ適時連絡シ

歩砲協同ヲ愈々緊密ナラシメテ

南京城雨花門攻撃ニ當リテ、敵、猛火ヲ冒シ第一線南大隊及旅團トノ連絡ニ任シ特ニ城壁破壊射撃ヲ多ク協力スル砲兵隊及配属砲兵中隊ニ通時彈着ヲ觀測シ之ヲ通報シ常ニ有効ナル射撃ヲ實施セシメ第一線突入スルヤ之ニ跟随シ敵首都南京城ノ一角ヲ占領シ適時重要ナル連絡ヲ確保セリ此機敏ニシテ勇敏適切ナル動作ヲ常ニ連絡線ヲ確保シ聯隊戰鬥指導ヲ容易ナラシメタルモニシテ其功績ハ武功拔群ナルモノト認ム

### 聯隊本部指揮機關

曾家門附近、戰鬥ニ方リテ聯隊ハ旅團ノ右第一線トナリ当面ノ敵ヲ攻撃セリ曾家門附近台上ニ「コンクリート」製建築物ヲ利用シ尙數個「トーチカ」及掩蓋銃座ヲ有スル約二大隊ノ敵ニシテ巾四米ノ鉄條網ヲ繞ラシ頑強ニ抵抗セルモ軍旗ヲ中心トシテ協力致能クテ數時間勇戰奮闘間各職責ヲ完シ或ハ進テ第一線ニ身ヲ挺シ連絡ニ任シ或ハ敵情ヲ觀察ニ任シ適時有利ナル意見具申テ爲シ聯隊長ヲ積極的ニ輔佐シ其戰鬥指導ヲ容易ナラシメタリ

南京城兩龍門ノ攻撃ヲ方リテ本部ハ自ラ敵ノ猛火ヲ冒シ第一線ニ進出シ工  
兵ノ突撃路開設及第一線戦闘指導ニ任シ午後三時五十分突撃路完成ス  
ルヤ突撃部隊先頭ニ立テ敵ノ十字火ヲ冒シ突進本部諸官及傳令相續テ  
傷キ莫クモ屈スル事ナク特ニ瀆曹長以下十三名ハ本部ノ先頭ニ挺進シ敵ノ  
送籠及城壁上一身兵ヲ撃退シ午後四時七分遂ニ城頭高ク軍旗ヲ翻  
シ城壁上及城門内ニ一部ヲ占領シ敵ノ送籠ヲ撃退シ聯隊本戦闘  
ノ魁トナリ敵國首都占領ノ契機ヲナレタルモノニシテ其ノ武功特ニ拔群ナルモノ  
ト認め

### 聯隊機関銃

南京要塞曾家門附近ノ戦闘ニ方リテ右第一線ニ第一大隊配屬機関  
銃トシテ高面ノ敵ヲ攻撃セリ

曾家門附近台上ノ敵ハコンクリート製建築物ヲ利用シ尚「ト」ケカ及掩蓋  
銃坐ヲ有ル約五六名ノ敵ニシテ中四米鉄條網ヲ繞ラシ頑強ニ抵抗セル能ク  
二十數時間不眠不休勇戦奮闘シ十數名ノ戦死傷者ヲ出スモ愈々志氣旺

盛ニシテ第一線ニ進出シ最モ有勳ニ第一線ノ歩兵戦闘指揮ノ同陣地ヲ定被  
 セリ南京城雨花門攻撃ニ方リテ敵ノ猛火ヲ冒シ第一線ニ進出シ兵ノ架橋  
 及城壁爆破作業ヲ掩護シ半空百歩後ニ時五十分突撃路完成スルヤ敵ノ  
 側防火ハ一層猛威ヲ逞シテ以テ之ヲ制圧シ能ク第一線部隊ノ突撃  
 奏効ヲ確實ナラシメタリ爾後城内ノ一角ヲ確保スルヤ一部ノ第一線ニ進出  
 シ戦果擴張ニ努メ主力ハ城外及城壁上ヨリスル教団ノ送籠ヲ阻止シ第一  
 線部隊ノ攻撃奏功ニ協カシ其ノ勇敢機敏ナル行動ハ本戦捷ノ因ヲ爲シ  
 タルモノニシテ其ノ武功拔群ナルモノト認め

配属 工兵第百十四聯隊第一中隊小隊長茂川少尉小隊  
 配属 同 右 聯隊副官阿部中尉一分隊

雨花門附近戦闘ニ方リ午後二時十分第一線歩兵部隊ハ城壁至近ノ  
 距離ニ迫ルモクリークノ幅四十米且ツ城門ハ固ク閉サレ突撃路ナク

一時停止スルノ已クナキニ至ルヤ敵彈雨注ノ中ヲ毫モ意ニ分セズ所在存命  
架橋材料ヲ蒐集シテ至短時間ニ修理ヲ完成シ死傷相次クモ更ニ挺進シ  
テ城門ヲ爆破シ突撃路ヲ開設シ友軍歩兵ヲシテ城内ニ突入セシメタリ  
其剛膽機敏ナル行動ハ實ニ當聯隊ヲシテ敵首都南京城占領ノ  
魁ヲナシタルモノニシテ殊勲甲ニ該當スルモノト認め

第ニ大隊長 歩兵少佐 児 森 高 植

右ノ者南京江寧要塞攻撃ニ方リ常ニ第一線大隊長トシテ終始率先  
先頭ニ立ケテ部下ヲ叱咤激勵シ戦況ヲ有利ニ進展セシメ特ニ雨花門附近  
ノ戦闘ニ於テハ午後三時五十分ニ兵架橋成ルヤ間髪ヲ容レズ城門ニ突  
進シ寡兵能ク群敵ヲ敗走セシメ續イテ突入セル各部隊ヲ區處シテ  
城内ノ角ヲ占領シ城壁奪取部隊ト相呼應シテ戦果擴張ニ勉メ  
着々奏効シテリシカ午後五時五十分ニ大腿及側腹ヲ貫通シ其ノ場  
外ニシテモ尚克ク部下ヲ激勵シ戦果ノ擴張ニ専念セシメ南京城突入ノ  
先鋒トナリ其ノ勇敢剛膽ナル行動ト適切ナル指揮トハ攻撃成功ノ主因

ヲナシ武功特卓拔ニテ殊勲甲ニ該當スルト認ム

聯隊旗守 歩兵少尉 小山 長 堯

右者十月十日南京城攻撃ニ方リ午後三時十分兵架橋成ニ機一  
失ニ敵猛火ヲ冒テ城壁ニ突進シ急峻ナル破壊口ヲ攀登シ群敵ヲ意  
トセテ城頭高ク軍旗ヲ翻シ尔後敵彈雨下リ城壁上ニ在リテ軍旗ニ威武  
ヲ示シ將兵志氣ヲシテ愈ニ旺盛ナラシム左上隅ニ貫通銃創顔面爆  
創ヲ受ケシモ屢次ノ敵逆襲ヲ悉ク撃退シ克ク身ヲ以テ軍旗ヲ守護  
シ城壁占領ニ魁ヲシタリ其武功特卓拔ニテ殊勲甲ニ該當スル  
モトト認ム

聯隊副官 歩兵少尉 滝澤 壽

右者十月十日南京城攻撃ニ方リ兵架橋上ニ機ヲ失セテ聯隊長ヲ助  
テ城壁ニ突進シ群敵ヲ攀銃ニテ猛射ニ隊長ノ危急ヲ救ヒ戦  
果擴張及敵屢次ノ逆襲ニ際シテハ所在ノ部隊ヲ激勵シテ之ヲ撃  
退シ勇戦中左頤部首貫ノ重傷ヲ負ヒシモ居セテ自ら綱帶シ戦闘

ヲ繼續シ益々奮起シテ朕隊長ヲ積極的ニ補佐シ南京城内及城壁上ノ敵ヲ擊退シ之ヲ確實ニ占領スルヲ得シタ其ノ武功ハ特ニ卓拔ニシテ殊勲甲ニ該當スルモノト認ム

第六中隊長 歩兵中尉野口禮五郎

右者二月十日ヨリ曾家門附近ニ攻撃シ於テ敵彈雨注間極ク堅固ナル陣地ニ據ル敵ヲ克クシテ數時間攻撃シ敵ヲ辟易セテ二月十日南京城攻撃ニ方リ部隊混淆シ且狹隘ナル假橋通過困難ナリシモ城壁破壊口突進シ敵彈雨飛中ニ破壊口左側城壁上所在ノ部隊ヲ統一指揮シ敵ヲ攻撃シ戰果擴張ニ勉メ且數次敵逆襲ニ際シテ率先自ラ小銃射撃及手榴彈戰鬥ヲ交ヘテ寡兵能ク之ヲ擊退シ城壁確保及城内攻撃ヲ容易ナラシメタルニシテ其ノ武功ハ特ニ卓拔ニシテ殊勲甲ニ該當スルモノト認ム

第七中隊長 歩兵中尉野呂甚太郎

右者二月十日南京城攻撃ニ方リ第二回ノ爆破終ルヤ機ニ乘テ率先城門ヨリ突入シ而飛スル敵彈ヲ冒シテ觀音殿ヲ占領シ敗退スル敵ヲ猛射



シ屢次敵逆襲ニ降シテ克ク部下ヲ激勵シテ之ヲ擊退シテ後戰果擴  
張ヲ容易ナラシメタリ其武功ハ拔軍ナルモト認ム

第三機關銃中隊長 歩兵大尉 内田義春

右者十月十三日南京城攻撃ニ方リテ敵ノ城壁ヨリスル猛射ヲ莫クセス工兵ノ  
架橋爆破ヲ掩護シ該作業成功スルモ機ヲ失セス急峻ナル城壁破壊口ヲ  
焚キ登シ城壁上ニ陣地ヲ占領シ急襲的火カヨリ敵ヲ猛射シ屢次敵  
逆襲ニ際シテ巧ニ火力ヲ運用シテ之ヲ擊退シ城壁確保ヲ容易ナラシメル  
ニテ其武功特ニ拔群ニシテ殊勲甲ニ該當スルモト認ム

通信班長 歩兵少尉 中條寧富

右者十月十日ヨリ開始セル南京城攻撃ニ際シテ應ズル通信網ヲ精  
成シ指揮連絡ヲ容易ナラシメタリ特ニ百兩花門攻撃ニ方リテ北門部  
員傷スルモ此ニモ立意ヲ企セテ敵彈雨注ノ中ニ克ク困難ヲ作業ヲ完成  
始連絡ヲ確保シ隊隊長指揮統制ヲ容易ナラシメタリ其武功特ニ拔群  
ニシテ殊勲甲ニ該當スルモト認ム

第四中隊長 步兵中尉 河原信三

右者十月十日第三大隊長指揮屬第一線最右翼在極堅固陣地ヲ攻撃シ克ク二十數時間敵彈雨注ノ間身ヲ曝シ奮戰シ更ニ二百兩花門附近戰鬪之際所屬大隊長指揮復第一線突擊ヲ援助シ次ヲ城門外側ヲ占領シ救次ノ敵逆襲ヲ撃退シ城壁及城内背後ヲ守備シ南京城占領ヲ容易ナシ其武功ハ拔群ニシテ殊勲甲ニ該當スルモノト認ム

第一大隊長 步兵少佐 會田 重

右者十月十日南京攻撃ニ方リ左第一線大隊長トシテ敵彈雨注ス中奮闘シ特ニ兩花門附近戰鬪ニ於テ率先頭ニ立テ部下ヲ叱咤激勵シ隊長ノ意圖ヲ捧シテ獨斷各隊ヲ統制指揮シ戰果ノ擴張ヲ容易ナシ其武功ハ特ニ拔群ニシテ殊勲甲ニ該當スルモノト認ム

聯隊本部情報班 步兵中尉 森下 武

右者十月十日南京攻撃ニ方リ常敵彈ニ身ヲ挺シテ積極的ニ第一線情

況<sub>ラ</sub>明<sub>ニ</sub>聯隊長ヲ輔佐<sub>シ</sub>特<sub>ニ</sub>十<sub>百</sub>兩花門附近<sub>ニ</sub>戰鬪<sub>シ</sub>方<sub>リ</sub>敵彈雨  
注<sub>シ</sub>間<sub>ニ</sub>縱橫<sub>シ</sub>馳<sub>リ</sub>驅<sub>リ</sub>指揮<sub>シ</sub>連絡<sub>シ</sub>勉<sub>ニ</sub>兵架橋成<sub>ル</sub>城壁<sub>ニ</sub>突進<sub>シ</sub>聯隊  
表<sub>ニ</sub>側<sub>ニ</sub>在<sub>リ</sub>上下<sub>ニ</sub>連絡<sub>シ</sub>戰果<sub>ヲ</sub>擴張<sub>シ</sub>專念<sub>シ</sub>敵彈<sub>ヲ</sub>眉間<sub>ニ</sub>命<sub>中</sub>  
壯烈<sub>ナル</sub>戰死<sub>ヲ</sub>遂<sub>ニ</sub>タリ然<sub>レ</sub>トモ其<sub>ノ</sub>勇敢<sub>ナル</sub>行動<sub>ヲ</sub>將兵<sub>ノ</sub>志氣<sub>ヲ</sub>益<sub>シ</sub>  
奮起<sub>セ</sub>ト<sub>ク</sub>其<sub>ノ</sub>武功<sub>ハ</sub>特<sub>ニ</sub>拔群<sub>ニ</sub>シテ殊勲<sub>ヲ</sub>甲<sub>シ</sub>該當<sub>ス</sub>モ<sub>ト</sub>認<sub>ム</sub>

聯隊本部瓦斯係 步兵少尉 小澤 左三

右者午後三時五分<sub>ニ</sub>兵架橋成<sub>ル</sub>敵彈雨注<sub>シ</sub>中<sub>ニ</sub>意<sub>ト</sub>セ<sub>ス</sub>機<sub>ヲ</sub>失<sub>セ</sub>ス  
城壁<sub>ニ</sub>突進<sub>シ</sub>敵<sub>ヲ</sub>擊<sub>退</sub>シ聯隊長ヲ輔佐<sub>シ</sub>奮戰<sub>中</sub>頭部<sub>ニ</sub>敵彈  
ヲ受<sub>ケ</sub>ルモ益<sub>シ</sub>奮<sub>シ</sub>果<sub>シ</sub>逆<sub>ニ</sub>襲<sub>テ</sub>擊<sub>退</sub>シ城内外部隊<sub>ニ</sub>連絡<sub>シ</sub>南京城  
占領<sub>ノ</sub>端緒<sub>ヲ</sub>爲<sub>レ</sub>タリ其<sub>ノ</sub>武功<sub>ハ</sub>特<sub>ニ</sub>殊勲<sub>ヲ</sub>甲<sub>シ</sub>該當<sub>ス</sub>モ<sub>ト</sub>認<sub>ム</sub>

聯隊本部書記 步兵曹長 濱 恒 晴

右者南京城攻撃<sub>ノ</sub>際<sub>ニ</sub>兵架橋成<sub>ル</sub>機<sub>ヲ</sub>失<sub>セ</sub>ス勇猛<sub>果敢</sub>率先  
城壁<sub>ニ</sub>突進<sub>シ</sub>敵彈雨注<sub>シ</sub>中<sub>ニ</sub>意<sub>ト</sub>セ<sub>ス</sub>峻<sub>ニ</sub>城壁<sub>ヲ</sub>攀<sub>登</sub>シ釋<sub>ル</sub>

敵ヲ擊退シ南京城一番乗りニシテ午後四時城頭高ク最初日章旗ヲ掲ぐ全軍  
ノ志氣ヲ鼓舞スルト共ニ適切ナル敵情ヲ報告シ或ハ城外部隊ト連絡ニ  
仕シ剛騰機敏ナル行動ハ南京城占領ノ端緒ヲ爲シタリ其ノ武功拔群ニ  
テ殊勲甲ニ該當スルモノト認ム

聯隊本部傳令 歩兵上等兵 安藤 英喜

右者聯隊旗ヲ傳令トシテ敵彈雨飛スル中ヲ軍旗ヲ護リ聯隊旗ヲ負傷  
スルモ良ク上官ノ危急ヲ救ヒ敵累次ノ逆襲ニ對シテ或ハ猛射或ハ手榴彈  
ヲ投擲シ遂ニ之ヲ擊退スル等軍旗ノ側ニテ奮戰中會ニ敵彈胸部ニ命  
中シ壯烈ナル最末ヲ遂ケタリ然レトモ其勇敢鬼神ヲ泣カシムル行動ハ遂ニ  
軍旗ノ守護ニ全カラシムルト共ニ城壁確保ノ因ヲ爲シタリ其ノ武功拔群ニシテ  
殊勲甲ニ該當スルモノト認ム

聯隊本部傳令 歩兵一等兵 林 茂治

右者聯隊本部傳令トシテ勤務中十時十有南京城攻撃ニ方リ聯隊本部ト第  
ニ大隊間ノ連絡ノ任ヲ以テ兒森少佐ト行動ヲ共ニシテ午後三時五十分

7

工兵架橋成り、機ヲ失セズ突進シ、更ニ第一面爆破ヲ散行シ、率先先頭ニ  
立テ敵ノ十字猛火ヲ冒シ、僅ニ開カレタル城門ヨリ突入シ、兎森少佐、指揮ヲ以  
テ群ル敵ヲ撃退シ、又左側方ヨリ累次、逆襲ニ際シ、兩注スル敵彈ヲ意  
トセズ能ク之ヲ猛射シ、敵ノ企圖ヲ挫折セシメ、南京城内占領ノ魁ヲセシム  
ニ其剛騰機敏ナル行動、武功特ニ拔群ナルモノト認ム

旗護兵 歩兵上等兵 伊藤 孝夫

右有敵彈雨注シ、中ヲ急峻ニシテ礮石坂下、城壁ヲ意トセズ軍旗ヲ守護  
シ、之ヲ林手登シ、遂ニ軍旗燦然トシテ城頭高ク斜陽ニ輝キ、全軍志氣  
ヲ鼓舞セリ、續クテ敵累次ノ逆襲ニ際シ、敵ノ咫尺ノ間ニ在リ、勇戦力闘、遂  
ニ之ヲ撃退シ、軍旗ノ危急ヲ救フト共ニ城壁確保、因ラ為シ、其武功拔  
群ニシテ殊勲甲ニ該当スルモノト認ム

聯隊本部傳令 歩兵一等兵 山越 正夫

右有敵彈雨注シ、中ヲ勇猛果敢率先城壁ニ突進、急峻ニシテ礮石降下ヲ  
意トセズ之ヲ林手登シ、足部ニ古貫銃創ヲ受ルモ怯マズ群ル敵ヲ撃退シ

城壁確保ノ因ヲ爲シタリ其ノ武功拔群ニシテ殊勲甲ニ該当スルモノト認ム

聯隊本部

歩兵伍長 松田正隆

右者聯隊本部指揮機關員トシテ敵彈雨飛スル中ヲ猛烈果敢城壁ニ突進シ群敵ヲ撃退シ適切ニ敵情ヲ報告シ克ク軍旗ヲ昇護シ城壁確保ノ因ヲ爲シタリ其ノ武功拔群ニシテ殊勲甲ニ該当スルモノト認ム

聯隊本部傳令

歩兵一等兵 百瀬麟一

右者ハ瓦斯係小澤少尉傳令トシテ勤務中午後三時五分連絡シテ第一大隊長許正五少尉時工兵ノ架橋成ルニ敵彈雨注シ中ヲ勇敢機敏ニ前進シ第二面爆破ニテ突撃路成ルニ間髪ヲ容レズ城門ヲ突入シ兎森少佐ノ指揮ニ入り群敵ヲ撃退シ累次ノ敵送襲ニ際シテ波看剛膽ニシテ猛射シテ撃退シ南京城ヲ占領端緒ヲセリ其ノ武功特拔群ニシテ殊勲甲ニ該当スルモノト認ム

通信班

歩兵伍長 中川久二

歩兵上等兵 竹内元廣

歩兵一等兵 細川幸平

曾家門附近攻撃之際猛烈に敵火ヲ冒シ第一線大隊ニ電話ヲ架設シ此  
 間十数回暗夜或ハ晝間敵砲彈ヲ多ク電話線切断セラレタリ敵猛烈に意  
 トスルトナク迅速ニ保線シ能ク之ヲ確保スナリ雨花門攻撃ニ當リテ旅團聯  
 隊本部間連絡シ特ニ砲兵ト協同ヲ密接ナラシム前進ニ方リテハ突  
 撃部隊ト共ニ敵猛烈火ヲ冒シ城壁上及城内ニ電話ヲ架設跟随シ稍モスレバ  
 戦闘ニ線シ城内外及城壁上ノ部隊ト連絡ヲ断ストモシ際密接ナル連絡ヲ  
 保ツテ得タリ其堅忍不拔犧牲的精神能ク本戦捷ノ因ヲ爲シタルモノナリ

- 左 歩兵上等兵 内山光雄
- 左 歩兵上等兵 平榮一
- 左 歩兵上等兵 藤原和芳
- 左 歩兵上等兵 有賀義一
- 左 歩兵上等兵 保木野保
- 左 歩兵上等兵 平林秋人
- 左 歩兵上等兵 本田清重

第三大隊長 步兵少佐 大塚 宏

右者南京江寧要塞曾家門附近戦闘ニ方リテ右第一線トシテ極メテ堅固ナシ障地ヲ攻撃シテククノ二十数時間敵彈雨注中ニ身ヲ曝シテ奮戦シ更ニ雨花門附近ノ戦闘ニ於テ豫備隊タリシカ第一線ノ突撃ヲ援助シ城外及城壁上敵逆襲ヲ撃退シ且第一線部隊ノ背後ヲ守備シテ南京城占領ヲ容易ナラシメリ其武功拔群ニシテ殊勲トシテ該当スルモト認ム

聯隊本部情報係 步兵中尉 関 將 市

右者南京江寧要塞攻撃戦中ニ際シ旅團司令部ト聯隊間連絡係ニ方リ敵彈雨注間ヲ終始身ヲ挺シテ重要ナル命令報告ヲ傳達シテ或ハ第一線ニ至リ有利ナル情報ヲ齊クテ積極的ニ聯隊長ヲ輔佐シテ南京城占領ヲ容易ナラシメリ其武功拔群ニシテ殊勲トシテ該当スルモト認ム

聯隊機關銃隊長 步兵大尉 小林 明 司

右者南京江寧要塞曾家門附近戦闘ニ於テ右第一線大隊ニ配屬シテ敵彈雨注間克ク二十数時間ニ亘リ死傷相次シテ益々士氣ヲ旺盛ニシテ奮



戦レ又雨花門附近ノ戦闘ニ方リテ兵架橋爆破作業掩護ノ多適時適切ナル射撃ヲナレテ成功セシメ南京城占領ノ因ヲナレタリ其武功ノ拔群ニテ殊勲乙ニ該当スルモノト認ム

歩兵砲隊長

歩兵大尉

桐原 要作

右者南京要塞曾家門附近ノ戦闘ニ方リテ最モ堅固ナル敵陣地ニ對シ最前線ニ進出シテトクカレテ掩蓋ニ據レル敵ヲ猛射シテ第一線部隊ノ攻撃ヲ容易ナラシメ又雨花門附近ノ戦闘ニ方リテ適切ナル陣地占領ニ依リ敵陣兩注ノ間ニ兵架橋爆破引續キ第一線突撃部隊ヲ掩護シ敵自動火器ヲ撲滅スル等南京城占領ノ多至大ナル貢獻ヲナレタル武功拔群ニシテ殊勲乙ニ該当スルモノト認ム

联隊副官

歩兵少佐

増澤 可也

右者南京江寧要塞曾家門附近ノ戦闘ニ於テハ克ク敵陣兩注ノ間ヲ意トシテ第一線及後方ト連絡ヲ緊密ニシテ又雨花門附近ノ戦闘ニ方リテハ各隊ヲ統制シテ兵架橋爆破等ニ関シテ適切ナル意見具申ヲナセリ

第一線突撃等ニ方リテ、機宜ニ適スル獨斷ヲ以テ、後方部隊ヲ整理区處シ、連絡ヲ密ニシ、或ハ城外ヨリタル敵ノ遠襲ニ際シテハ、之ヲ猛射セシメテ敵ノ企圖ヲ挫折シ、南京城ヲ占領シ、容易ナラシメタリ、其ノ武功ハ、拔群ニシテ殊勲乙ニ該當スルモノト認ム

聯隊本部 砲兵技術准尉 櫻井米治

右者十月十日晉廣陳鎮北方部落ヨリ、残置人員及大小行李ヲ指揮シ、別路ニ依リ、聯隊ニ追及中ナリシカ、十月十日、聯隊復歸シ、彈雨ヲ冒シテ連絡ニ来リ、残置人員ヲ所屬隊ニ交付シ、第一線ノ彈藥欠乏ヲ知ル、機ヲ失セス、潤澤ニ之ヲ補充シ、以テ士氣ヲ旺盛ニシ、戰鬥ヲ有利ナラシメ、戰捷ニ湛ラタリ、其ノ武功ハ、殊勲乙ニ該當スルモノト認ム

聯隊本部 歩兵伍長 三澤瑞穂

右者十月十二日南京城攻撃ニ際シ、旅團司令部聯隊本部間連絡ノ任ニ方リ、彈丸雨注ノ間、克ク救火ヲ且リ、重要ナル命令ヲ傳達シ、戰鬥指導ヲ容易ナラシメタリ、機敏剛勝ナル行動ハ、殊勲乙ニ該當スルモノト認ム

聯隊本部

步兵軍曹

永井 勘

右者十月十日南京城攻撃方、敵彈雨注、中ヲ責トセテ救回ニ亙リ第一線ノ情况ヲ明シシ聯隊長ニ報告シ其ノ戰鬥指導ヲ以テ戰機ニ適合セシメタリ其ノ剛膽機敏ナル行動ハ殊勲トシ該者スルモト認ム

聯隊本部傳令 步兵上等兵 余田 光三

右者聯隊長傳令トシテ敵彈雨注礮石降下ノ城壁ヲ意トセテ隊長ノ身ヲ護リ機敏登リテ群ル敵ヲ撃退シ或ハ重要ナル命令ヲ城内部隊ニ傳達スル等沉着機敏ナル行動ハ遂ニ南京城攻略ノ端緒ヲ作りタリ其ノ武功拔群ニシテ殊勲トシ該者スルモト認ム

聯隊本部傳令 步兵上等兵 堀内 敏

右者聯隊長傳令トシテ敵彈雨注礮石降下ノ城壁ヲ隊長ノ身ヲ護リ機敏登リ群ル敵ヲ撃退シ或ハ重要ナル命令ヲ救度ニ亙リ城内外部隊ニ傳達スル等剛膽機敏ナル行動ハ遂ニ南京城占領ノ端緒ヲ爲シタルモノニシテ其ノ武功殊勲トシ該者スルモト認ム

聯隊本部傳令 步兵 柳澤勝五

右者本部傳令長、勤務中南京城附近戰關、敵銃砲彈雨  
飛タルモ此モ意、今モ常積極的行動、連絡ヲ確保シ特ニ雨花  
門附近ニ於テハ兵、架橋成ルモ城壁破壊、突進シ敵彈雨飛スル中  
勇敢ニ行動シ敗走スル敵ヲ猛射シ或ハ累次、敵送襲ニ際シ或ハ射  
撃、或ハ手榴彈ヲ投シ其企圖ヲ挫折シ、戰鬥激甚、間傳令、任  
務ヲ完ウレタルハ武功拔群ニシテ殊勲、乙ニ該者スルモト認ム

聯隊本部 步兵伍長 武井平吉

右者十月十日南京城攻撃、方リ終始軍旗、傍ニ在リテ奮闘シ群ニ敵  
對シ手榴彈ヲ投擲シ或ハ屢次、敵送襲ニ際シ之カ敵ヲ退シ好ナル等其  
剛膽ナル行動、軍旗ヲ守護シ城壁確保、因ラナルモトシテ殊勲、乙ニ  
該者スルモト認ム

聯隊本部傳令 步兵上等兵 有賀良治

右者十月十日南京城攻撃、際ニ峻峻タル破壊口ヲ攀登シ軍旗、

傍ニ在リテ群ル敵ヲ猛射シ午後四時四十五分敵大退襲ニ際シ之ヲ撃退  
セトシテ午揚彈ヲ投擲セル刹那敵一彈頭部ヲ貫通シ壯烈ナル最期ヲ  
遂ケタリ其勇猛ナル奮戦ハ敵ヲ撃退シ軍旗ヲ守護シ城壁確保ノ因ヲナ  
シタルモノニシテ殊勲乙ニ該当スルモノト認ム

聯隊本部行季長 輜重兵軍曹 清水 邦 田力

右者十月十日南京城攻撃ニ方ニ敵彈雨飛中ヲ克ク第一線ト連絡ヲ  
保持シ彈藥ヲ欽至ヲ訴フルヤ機ヲ失セス潤澤ニ補充シ志氣ヲ益シ  
旺盛ナラシメ戦闘ヲ有利ニナラシメタリ剛膽機敏ナル行動ハ殊勲乙ニ  
該当スルモノト認ム

戰鬥詳報第六號附表

昭和十二年十二月至十三日 步兵第百五十聯隊死傷表

備考	總計	野砲兵中隊	工兵一小隊一分隊	步兵砲隊	聯隊機關銃隊	第一大隊	第二大隊	第三大隊	通信班	聯隊本部	團區分		戰關參加人馬	死		傷		生死不明		
											將校	准士官 下士官		馬匹	將校	准士官 下士官	馬匹	將校	准士官 下士官	馬匹
	七三	三	二	四	三	一六	二一	一五	一	八	將校	八	將校	一	三	三				
	二二六	一一一	四九	二六	六三	四六	六五	四七	四五	九九	准士官	九九	准士官	三	二	二	四	一		
	三四六	八七		二六	二	六三	一一	八九	八	五九	馬匹	五九	馬匹	四	四	二	三			
	四									一	將校	一	將校	一	二	二				
	五一			一	一	一五	三四	六		三	准士官	三	准士官	六	七	七	一			
	一〇			一	一		四	四			馬匹	四	馬匹	四	二	二				
	一一			二		二	二	二	一	三	將校	三	將校	一	二	二				
	一三六		三	七	三	二	七	六		四	准士官	四	准士官	六	七	七	一			
	三			三							馬匹	三	馬匹	三	三	三				
											將校		將校							
											准士官		准士官							
											下士官		下士官							
											馬匹		馬匹							

戦闘詳報 第六號 附表 二

昭和十二年十月自十三日 歩兵第百十聯隊 鹵護辰

備考	員数	種類		戦利
		区分	存虜	
一、鹵獲品ノ大部ハグリホリニ投棄セリ		將校		
		准士官 下士官 兵		
		馬匹		
		485	小銃	
		10	輕機	
		6	重機	
		6	拳銃	
		1	迫撃砲	
		85635	銃彈	
		910	手榴彈	
		20	爆藥	
		5	輕砲	

戰闘詳報第六號附表

昭和十二年十月十日  
自十月十日  
步兵第五十聯隊武器彈藥損耗表(甲)

計	工兵第小隊	野砲第小隊	歩兵砲隊	聯隊機關銃隊	第三大隊	第二大隊	第一大隊	聯隊本部	隊		種類	損失
									號	區分		
32255	200			150	8602	15181	11224	2,005		銃 小	彈 消	
41154					7235	16849	23860			銃 開機輕	費	
56930				9880	17330	9820	29500			銃 開機		
209			209							砲 兵步射平		
170			170							砲 兵步式九		
275						150	125			彈 榴手		
104							104			銃 拳		
76		76								彈 砲野		
22班	22班									藥 爆小		
13						12	1			銃 小		
1						1				銃 開機輕	武 器	
1				1						銃 開機		
								1		砲 兵步射平		
										砲 兵步式九		
										銃 小		
										銃 開機輕	彈	
										銃 開機		
										砲 兵步射平		
										砲 兵步式九		
15			2								藥 失	
27				6		13	3	1		劍 銃	其 他 武 器	
72				7		21				盒 藥 彈		
						34	31			具 器		

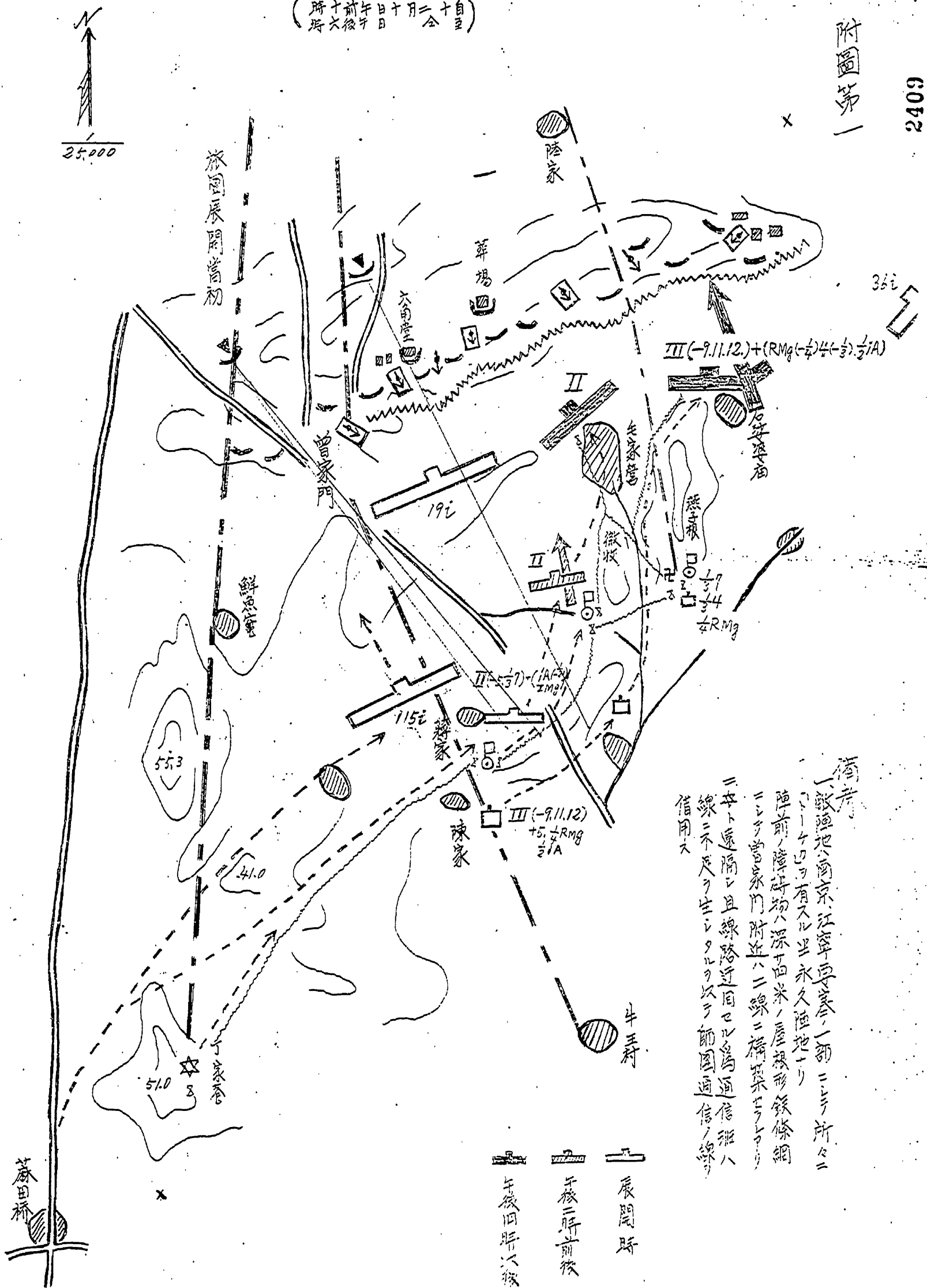


# 步兵第五百聯隊戰經要圖

(自二十二月十日午前十時  
至翌日午後六時)

附圖第一

2409



備考  
一 敵陣地は南京江寧路沿線一部ニシテ所々ニ  
トーチカ等ヲ有スルモ永久堅固地ナリ  
陸前ノ障礙物ハ深ク田米ノ屋根形鉄條網  
ニシテ常時永門附近ハ二線ニ橋架テラレリ  
二 本ト遠隔シ且線路近同セルモ通信線ハ  
線ニ不度ラシシタルヲ以テ節節通信ノ線  
信用ス

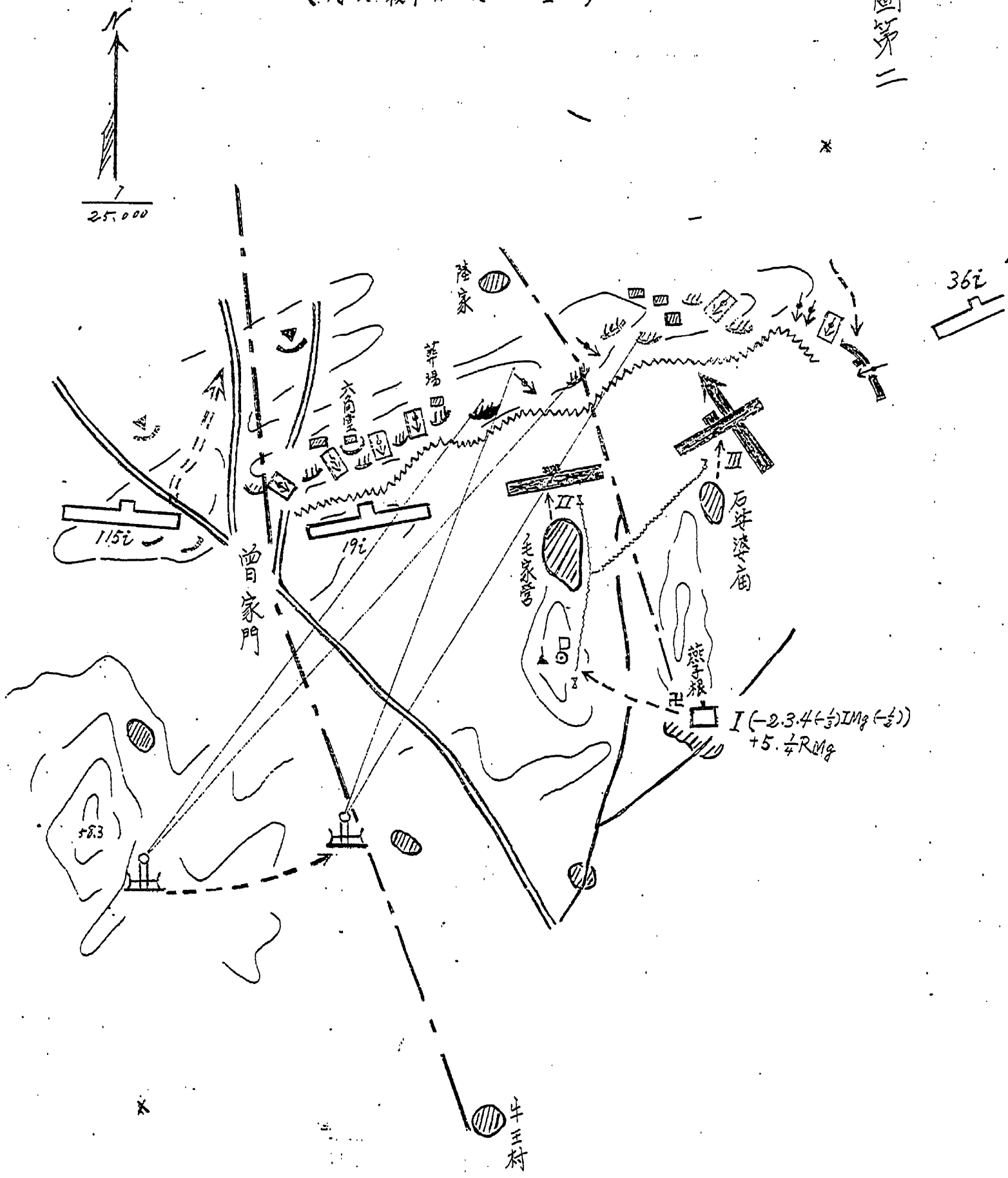
展開時  
午後三時前後  
午後四時以後

圖要過經戰近附方東門家曾隊聯十五百第兵步

(時一十前午日一十月二十自於)  
(時天後午日一十月二十自於)

附圖第二

2410

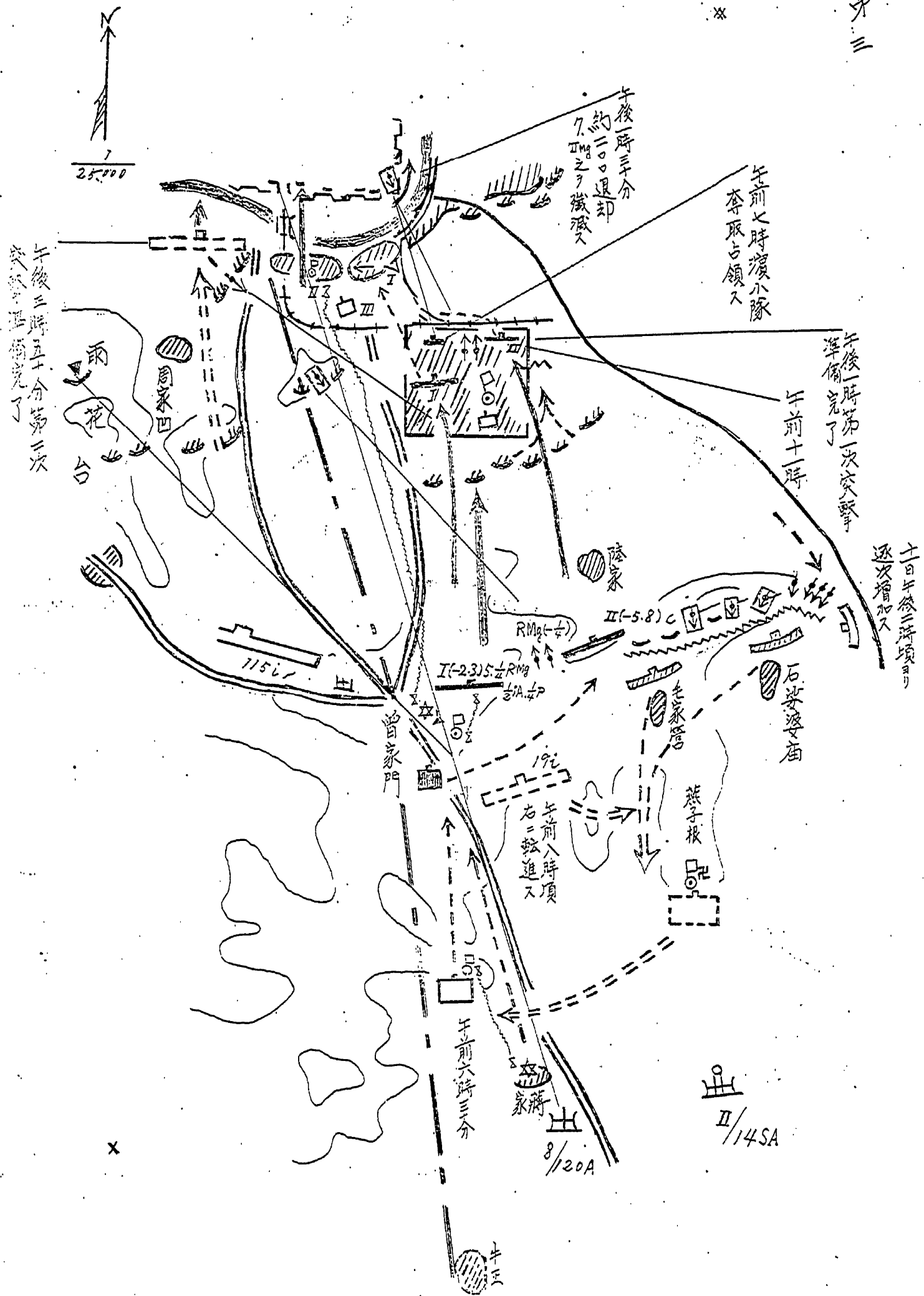


# 步兵第百五十五聯隊戰鬪經過要圖

(於十月二十日午前一時至午後三時準備時期)

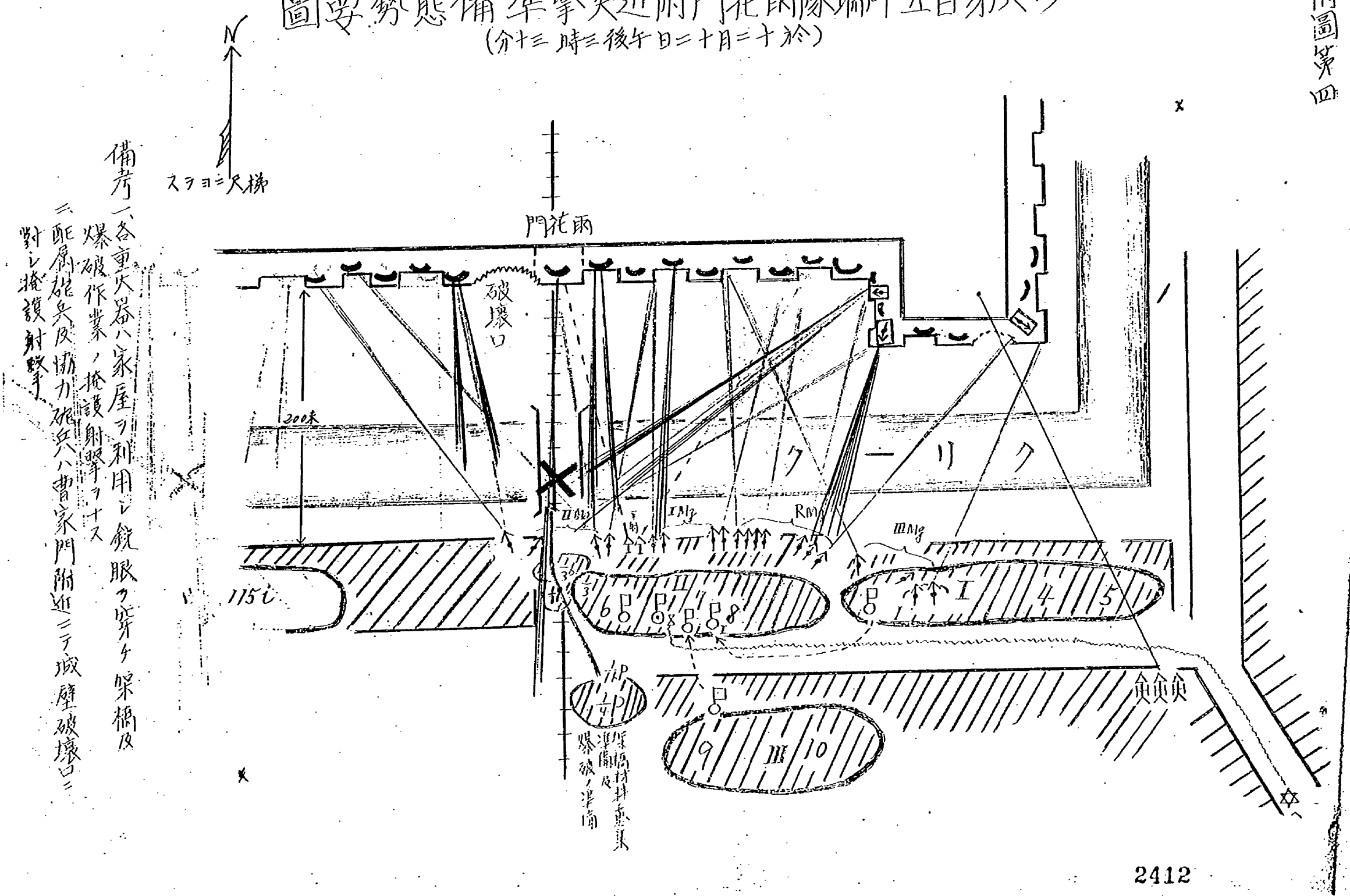
附圖第三

2411



圖要勢態備準擊突近附門花雨隊聯十五百第兵步  
 (分十三時三後午日二十月二十於)

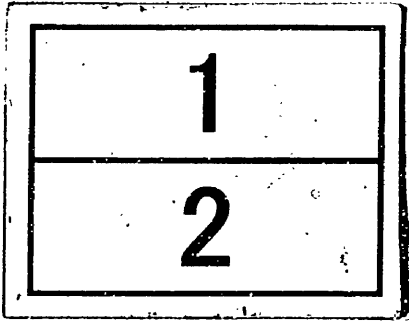
附圖第四



備考  
 一、各重火器ハ家屋ヲ利用シ銃眼ヲ穿テ架橋及  
 爆破作業ノ掩護射撃ヲナス  
 二、配屬砲兵及協力砲兵ハ曹家門附近ニテ城壁破壊口ニ  
 對シ掩護射撃ヲ

2412

## 分割撮影ターゲット

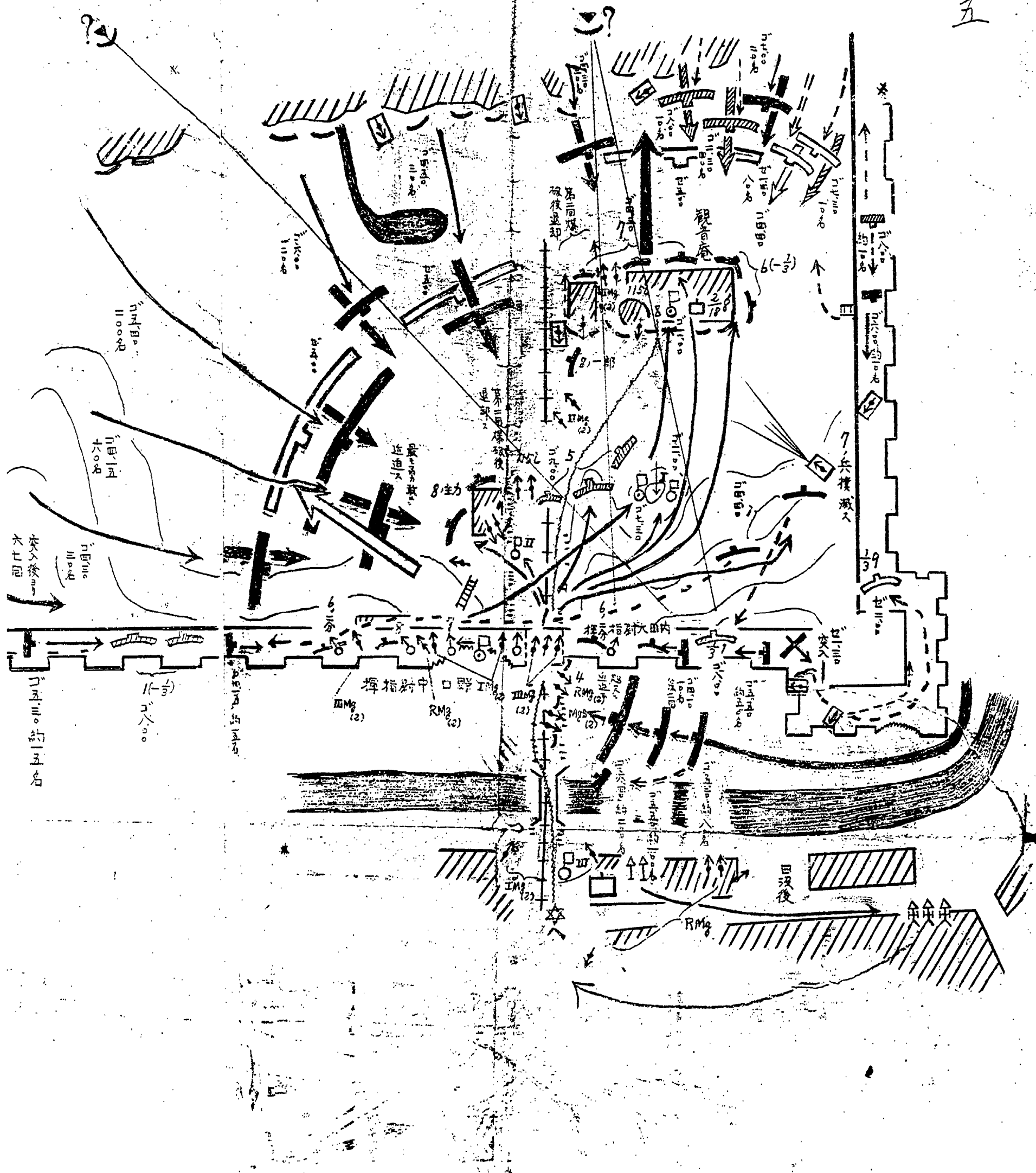
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3版以上のため
文書等名	歩兵第15連隊雨花門附近戦闘経過要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

圖要過經 闘戰近附門花雨隊聯五百第兵步

(時四後午日二十皇月二十)

2414 2413

附圖第五

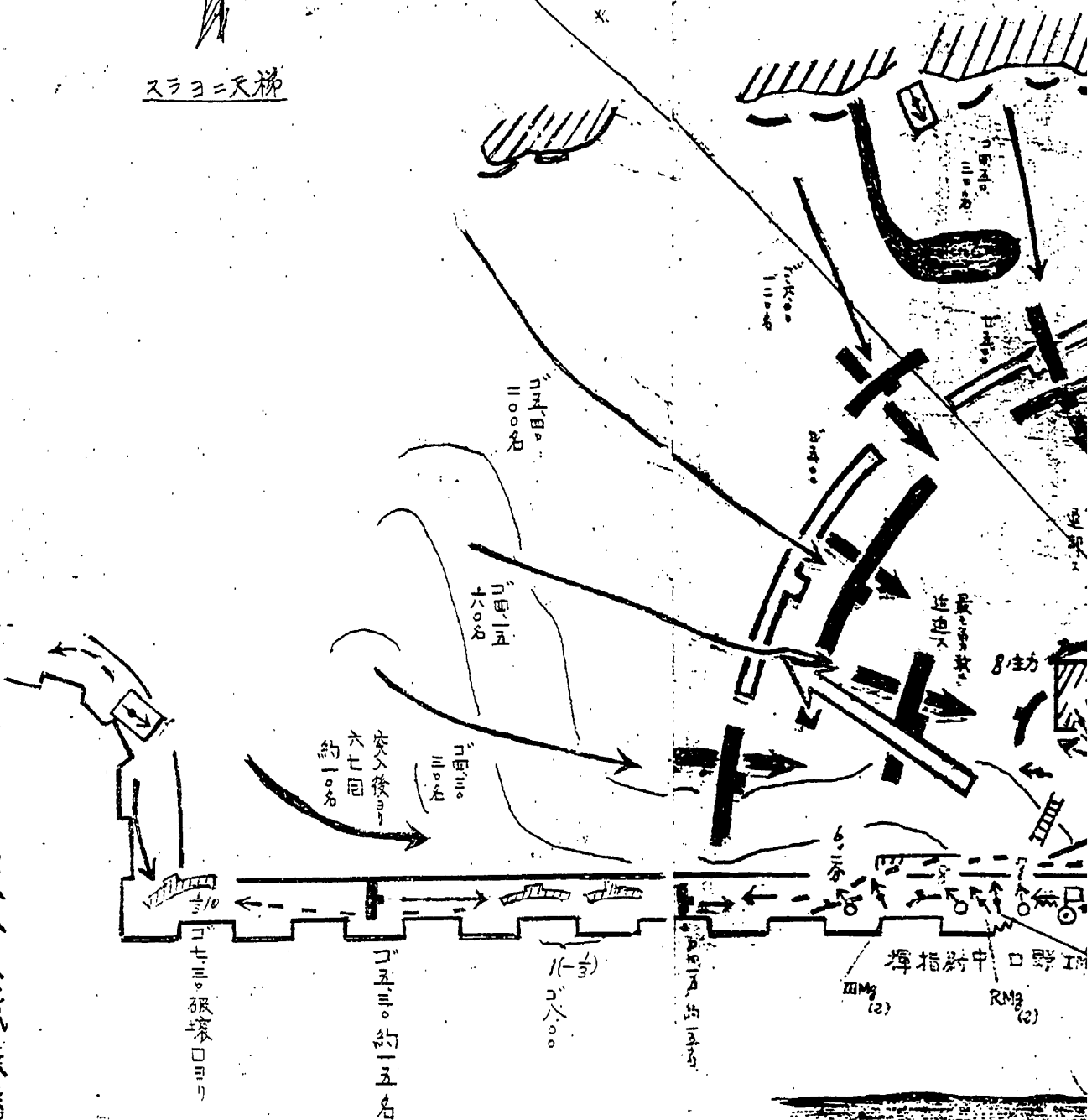
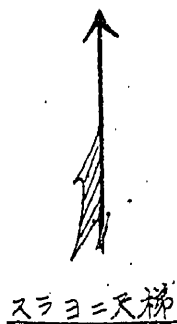


圖要過経 闘戰近附門花雨隊

(時日二十皇月 後午日三十皇月)

備考

一 午後七時以前  
 二 正子以前  
 三 正子以後  
 四 午前五時、逆襲ハ最後ニシテ殆ト全正面  
 五 二重リ其ノ兵力ハ五六百ト判断ス  
 六 逆襲ハ悉ク撃退セリ



突入及戦果擴張經過概要

一 午後三時五十分  
 二 午後三時五十分  
 三 午後四時 五分  
 四 午後四時 七分  
 五 午後四時 十五分  
 六 突撃 直撃  
 七 午後四時 四十分  
 八 午後五時 五十分  
 九 歩兵第百十五聯隊ハ尔後 後續部隊進入セズニ爲シ歩兵第百十五聯隊  
 一〇 午後七時 二十分

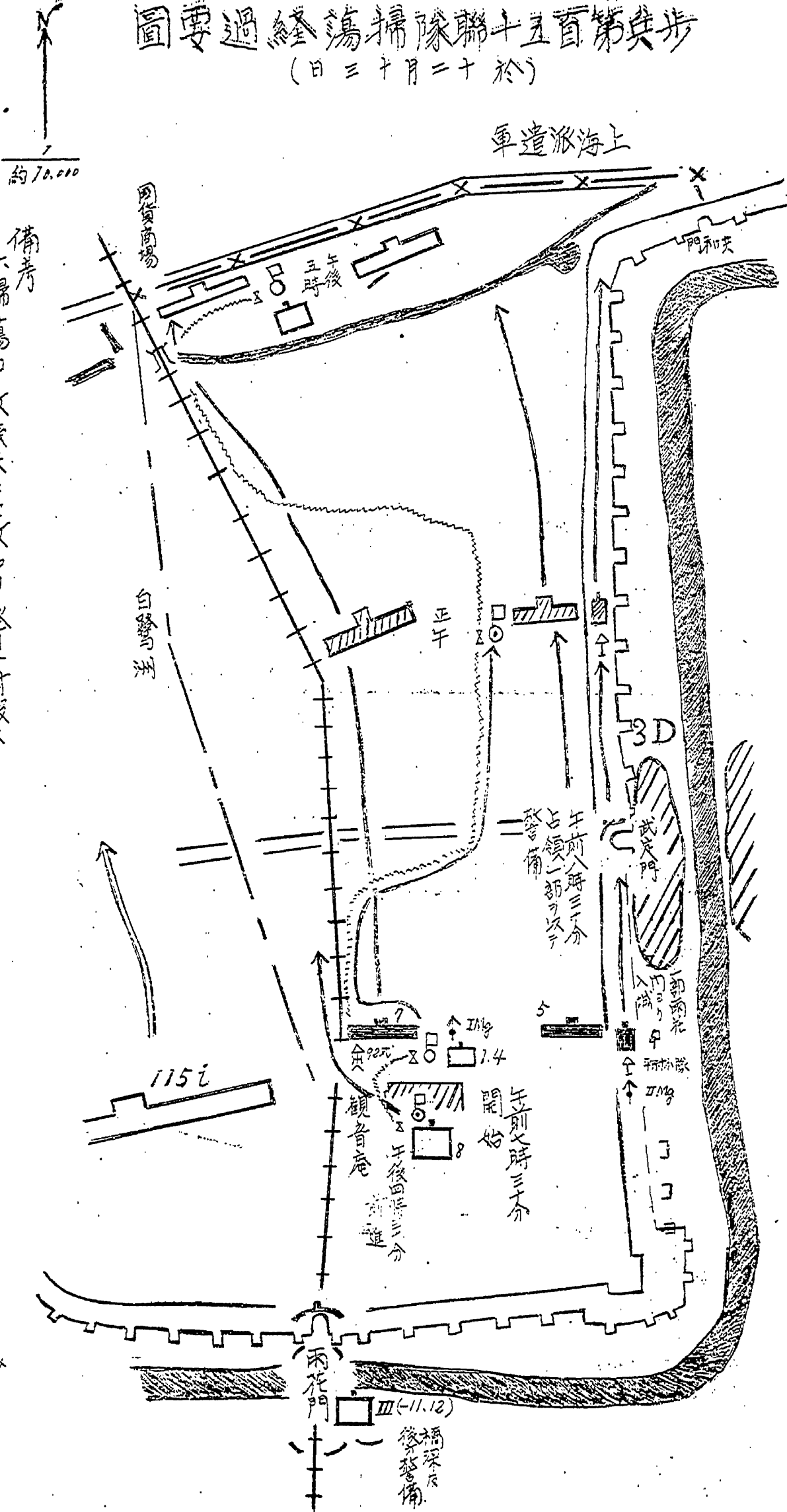
架橋修理完了  
 第一回城門爆破  
 引續キ兎森少佐以下四名突入  
 濱曹長自率横隊ヲ率テ破壊口ヲ攀登  
 之ニ引續キ軍旗ヲ揮リ聯隊本部續行  
 城壁之上ヲ占領逆襲ヲ撃退  
 第二回城門爆破  
 引續キ 8.7.6.1ノ部隊(班ノ部混淆)突入  
 午後四時十五分ヨリ同五時一軒屋ヨリ左前方  
 尔後右側ニ轉シ戦果擴張  
 歩兵第百十五聯隊ハ鉄道線路ヨリ左  
 歩兵第百十五聯隊ハ石ノ敵ヲ攻撃スル如ク協定ス  
 第二大隊長一軒屋ニテ敵陣ニ砲撃  
 九 歩兵第百十五聯隊ハ尔後 後續部隊進入セズニ爲シ歩兵第百十五聯隊  
 一〇 午後七時 二十分 軍旗及聯隊本部城壁上ニ移動ス

圖要過経蕩掃隊聯十五百第兵歩

(日三十月二十年於)

附圖第六

2415



備考  
 一掃蕩中敗殘兵ニテ数多ク發見射殺ス  
 二城内ノ家屋稠密ニテ時間ヲ費セリ